

大阪作業療法 ジャーナル

Journal of the Osaka
Occupational Therapy Association : **JOOTA**

特集 世界と戦う
パラスポーツのアスリート達



Vol. 34 No. 1
Jul 2020

OT
SAKA

(一社)大阪府作業療法士会

大阪作業療法ジャーナル

第34巻 第1号

巻頭言	辻 薫 …………… 1
特集：世界と闘うパラスポーツのアスリート達	
[総論] 障がい者スポーツの変遷	大西 満 …………… 2
障害者と水泳	大向 優貴 …………… 10
中途障害者のパラスポーツのかかわり方とセラピスト 私がパラカヌーと車いすバドミントンに出会ったきっかけ	我妻 進之 …………… 19
パラサーフィンのレガシーをつくる	藤原 智貴 …………… 26
“したい”がつなが、ひと・場所・スポーツ ～車椅子ハンドボールに携わって～	福島 洋祐 …………… 33
投稿論文	
家庭内暴力が頻発し頓服薬を多用していた在宅統合失調症患者が 訪問支援によって“リカバリー”に向かった一例	真下いずみ …………… 42
シリア難民障害者 Self-Help Group 形成過程とその現状 ーリハビリテーション専門職と難民障害者との連携の可能性ー	山本 清治 …………… 50
知っていますか？	
福祉用具について	山下 協子 …………… 60
書評カフェ	細川 純子・中井 秀昭・中村 愛子 …………… 63
となりの街の作業療法士	
地域で生きていくこと	保田 憲吾 …………… 66
脳卒中患者に対するのCI療法の実践 ～CI療法チームの活動を通じて～	田中 伸幸 …………… 69
実践報告	
多発骨転移を呈しながらも主婦として復帰可能となった一症例	熊野 宏治 …………… 74
投稿規定	…………… 81
著作権規定	…………… 83
執筆要領	…………… 85
投稿論文チェックシート	…………… 87
編集後記・部員名簿	…………… 88

表紙について



この特集は「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」にむけて編集部が2年近く前から企画したものです。選手の練習の負担にならないようかなり早くから執筆依頼をし、そしてこの号の発刊に至りました。ところがCOVID-19の世界的流行を受けて大会はなんと開催延期！この未曾有の事態を受け入れ、強い気持ちで困難に立ち向かおうとする選手の皆さまに、最大のエールを送りたいと思います。表紙の写真は、特集号でご執筆いただいた方それぞれの競技中の躍動感あふれる貴重なひとコマです。これを機にパラリンピック競技に注目していただき、練習などで忙しい中、この特集に原稿と写真を執筆くださった選手の方々に熱い応援を是非ともお願い致します

ジャーナル編集部員 塚越 千尋

巻頭言

変容：トランスフォーメーションへのリーダーシップ

辻 薫

(一社)大阪府作業療法士 理事
大阪発達総合療育センター

2020年の上半期、新型コロナウイルス感染症により、世界中の人々の生活様式は瞬く間に変容した。パンデミック(世界的大流行)により、東京パラリンピックも延期となった。オリンピック憲章の「平和でより良い世界の構築」を世界中の人々が再び共有し、「コロナを克服する」大きなレガシー(遺産)となる大会が日本で開催できることを願っている。

実は、このパラリンピック東京大会の出場権を勝ち取った若者が同じ職場で働いている。彼は電動車椅子を操作し、同じフロアで職員と共に並んで食事をする。週に数回のコンディショニングをPT、OTと行き、ケアスタッフと自主練習に励む。また、事務職を習い、職業人として成長しながら、『ポッチャ』という競技の広報誌を創り、内外へ競技大会での戦績を発信してくれている。

彼は、幼い頃から当センターを利用し、医療とセラピーを経験しながら、『ポッチャ』というスポーツと巡り合い、彼の中に、そもそも存在していた固有の遺伝子が覚醒し、その潜在能力を解き放った。その彼を職員として迎え入れ、競技生活と仕事をするを通して沸き起こる様々な喜怒哀楽を職場の同僚として、身近にあってリアルに追体験することの価値もまた大きい。彼の変化と成長のプロセスには、みんながわくわくして、元気と感動をもらっている。もはや、電動車椅子さえ、彼自身の一部と化し、彼そのもののクオリティ・オブ・ライフを輝かせている。自らの心と身体に、ただ日々ひたむきに向き合い、「一生懸命」を楽しみ、生きることの「質」を問いかけてくれている。

スポーツには、医療、芸術、コミュニケーション、教育の4つの要素があると、スポーツ心理学から学んだ。医療は人の元気を作り出し、芸術は心を揺さぶり、仲間とのコミュニケーションを育み、教育は人の成長を助ける。よくよく考えてみると、スポーツもそうであるように、人は成長と発達の過程で、「活動と参加」の体験を通して、「元気」、「感動」、「仲間」、「成長」を生み出すことができる潜在能力と可能性をもっている。

しかし、我が国の現状では、「活動と参加」が真逆の結果をもたらすことが多いのではないだろうか。そして、その結果が、人の心身の不調や対立を引き起こす誘因になっているのではないだろうか。

だとしたら、「活動と参加」の「質」を「元気」「感動」「仲間」「成長」にギアチェンジして、一人ひとりのクオリティ・オブ・ライフ『人生の質』に意識の変容(トランスフォーメーション)を起こすこと、人を潜在能力と可能性のある変化する存在として見通すこと、その変容のプロセスそのものをもたらす、「活動と参加」の在りように大きな価値がある。どのような「活動と参加」にチャレンジするか、どのような心の状態でやるのか、成長と可能性をもって変容していくプロセスが重要であり、だれしもそうなることができると、スタンフォード大学スティーブン・マーフィー重松教授は彼の「リーダーシップ論」で語っている。

「自分が自分のリーダーになる」、「自分育ての達人となる」という、リーダーシップを意識することが、未来の扉を開く鍵となりそうだ。私たち一人ひとりには、リーダーになる能力があるし、それを自覚し、「自分の意志で行動」し、「最良の行動を取る責任」があり、自分を変えることができる。そして、「自分が今、何をなすべきか」を決定し、その決断をチーム全体でシェアし、最終判断を決めるプロセスを経て、最善への道に向かって、チーム一体となって進んでいくことができる。自分へのリーダーシップを発揮する、尊重する生き方や働き方は、個人を成長させ、また相互に関連するチーム全体を進化させる。進化には、自分の中に未知なるものが大いにある、という謙虚さと、未知なる未来へ挑む勇気が極めて重要になる。

自分をマネジメントできているか、全体性を感じて行動しているか、個人と全体を見通し、新たな生活様式を創り、東京パラリンピック、そして大阪万博を迎えられるか。八百万の神をもつ多様性を受け入れる土壌と「和を以って貴し」とする国民性が進化したモデルを世界に発信することができるのではないか。

大阪作業療法ジャーナル
第34巻 第1号

発行人：関本 充史

(一社)大阪府作業療法士会

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-16-8 玉造井上ビル6階

TEL：06-6765-3375 FAX：06-6765-3376

URL：http://osaka-ot.jp E-mail：jimu@osaka-ot.jp

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

